

看護部クリニカルラダー

定義	レベル		レベル1	レベル2	レベル3	レベル4		
	【レベル毎の定義】		基本的な看護技術や手順をふまえて助言を得ながら看護実践ができる	標準的な看護計画に基づき自立して看護実践をする	個別的な看護を実践する	予測的な判断をもちながら看護実践ができる		
看護の核となる実践能力	ニーズをとらえる力		【レベル毎の目標】	助言を得て患者や状況(場)のニーズをとらえる	患者や状況(場)のニーズを自らとらえる	患者に合う個別的な看護を実践する	患者や状況(場)を統合的ニーズをとらえる	
			【行動目標】	①患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる	①自立して患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができ、課題をとらえることができる ②情報に基づいて看護問題を明らかにでき、メンバーに伝えることができる	①患者・家族に必要な身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から個別性を踏まえ必要な情報収集ができる ②得られた情報から優先度の高いニーズをとらえることができる	①予測的な状況判断のもと身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から必要な情報収集ができる ②情報を統合し、ニーズをとらえることができる	
	ケアする力		ケアの改善・提供 病態把握	【レベル毎の目標】	助言を得ながら、安全な看護を実践する	自立して患者や状況(場)に応じた看護を実践する	患者や状況(場)の特性を踏まえた看護を実践する	様々な技術を選択・応用し看護を実践する
				【行動目標】	①看護手順に沿ったケアが実施できる ②客観的データや身体上的変化を観察し報告できる ③看護実践を記録できる	①患者・家族の個性を考慮しつつ看護計画に基づき安全なケアを実践できる ②客観的データや身体上的変化をとらえ、理論に基づいて実践でき評価できる ③ケアを実践する際に必要な情報を得ることができる ④未経験の看護技術を実践するとき、資料や人的資源を活用できる	①患者の個性に合わせてケアを実践できる ②患者の顕在的・潜在的ニーズを察知しケアの方法に工夫ができる(対策ができる) ③他のメンバーに理論に基づいたケアの指導ができる	①患者の顕在的・潜在的なニーズに応えるため、幅広い選択肢の中から適切なケアを実践できる
			感染	【行動目標】	①指導を受けながら、標準予防策が実施できる	①標準予防策が実施できる	①経路別感染予防策を知り、それに応じた対策をとることができる	①感染管理について、部署の問題に気づき対策をたてることができる
			安全	【行動目標】	①医療安全の研修に参加できる ②インシデント・アクシデントレポートの作成を助言を得てできる(レポートの記入の仕方が分かる) ③顕在的なインシデントに対し、助言を得ながら伝えることができる対策ができる	①医療安全の研修に参加できる(研修をサポートできる) ②顕在的なインシデントに対し対策ができる。潜在的なインシデントを助言を得ながら見出し対策ができる ③インシデントと対策を記録・報告できる ④インシデントレポートを作成できる ⑤アクシデント発生時はレポートを作成し、情報共有できる	①医療安全の研修に参加できる(主体的に行える) ②潜在的・顕在的なインシデントに対し対策ができる ③インシデント・アクシデントに対し病棟内で共有できるような行動が取れる ④インシデント・アクシデントの分析ができる	①医療安全研修に参加できる(評価をフィードバックできる) ②報告されたインシデント・アクシデントに優先順位をつけ、病棟単位での対策がとれる ③インシデント・アクシデントの分析ができ、スタッフへのフィードバックができる ④医療安全の視点から、人・物の配置ができる
			薬剤の取扱	【行動目標】	①定期薬、臨時薬の処方方法、伝票の見方、受け取り、管理方法がわかる ②間違いなく与薬できる ③投与経路、方法、時間がわかる ④注射伝票の見方がわかり実施できる	①麻薬の発注・受注・管理方法が分かり、実践できる ②単独投与の薬剤が分かり実施できる ③血行動態や呼吸状態の影響を及ぼす薬剤がわかり、指示通りに投与できる	①麻薬の発注・受注・管理方法・投与方法について助言できる	①薬剤管理の視点から、場所・物の配置の管理ができる
	救命救急	【行動目標】	①救命(BLS)において必要な役割・環境・情報・物品がわかる ②BLSにおいて胸骨圧迫・呼吸の介助ができる ③BLSのメンバーとしての役割が理解できる	①BLSの実践ができる ②BLS、ACLS(二次)について必要な役割・環境・情報・物品が分かる ③各役割の正確な遂行ができる ④急変時や救命時の家族の気持ちを聞くことができる ⑤急変時の家族のキーパーソンが分かる	①BLS、ACLSの実践ができる ②BLS、ACLSの評価ができる ③各役割の正確な遂行ができ、評価に基づいた人・物の配置ができる ④リーダーとしての役割が実践できる ⑤家族の気持ちや思いを推測でき、状況にあった説明や対応ができる	①チームダイナミクスができる ②家族の気持ちや思いを聴取できる ③救命中の場所・物・人の配置の管理ができる		
	協働する力		【レベル毎の目標】	報告・連絡・相談ができる	看護の展開に必要な関係者を特定できる	患者や家族とケアについて意見交換ができる	患者を取り巻く多職種を調整し連携できる	
			【行動目標】	①助言を受けながら患者を看護していくために必要な情報が何かを考え、スタッフに提示できる ②ケアしていくために必要な情報を収集できる	①患者を取り巻く関係者の立場や役割の違いを理解した上で、それぞれと積極的にコミュニケーションを取ることができる ②看護の方向性や関係者の状況を把握し、情報交換できる	①患者・家族の個別的なニーズに対応するために、多職種連携できる ②院内の多職種に協力を求めることができる	①患者・家族が置かれている状況(場)を広くとらえ、結果を予測しながら主体的に多職種と協力し合うことができる ②多職種間の連携が機能するように調整できる	
	意思決定を支える力		意思決定支援	【レベル毎の目標】	患者や周囲の人々の意向を知る	患者や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	患者や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	患者や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる
				【行動目標】	①助言を受けながら患者や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	①患者や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる ②確認した思いや考え、希望をケアに関連付けることができる	①患者や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる ②患者や周囲の人々の意向の違いが理解できる ③患者や周囲の人々の意向の違いを多職種に代弁できる	①ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる
			倫理	【行動目標】	①看護倫理要綱を知ることができる ②患者の権利を知ることができる ③人権を尊重した行動がとれる	①看護倫理をふまえて、臨床の場面に直面した問題に対しどうすべきか自分で判断し実践や意見を述べるができる	①倫理的問題の対応について問題を分析整理できる	①倫理的問題の対応について問題を分析整理できる
	組織役割遂行能力		管理	【レベル毎の目標】	助言を受けながらチームメンバーとしての役割をはたす	チームメンバーとしての役割をはたす	チーム全体の状況を捉えて行動する	所属する部署の特殊または専門的な能力を必要とされる役割、または、指導的役割を遂行する
				【行動目標】	①自らの役割と能力の限界を知ることができる ②自らの能力や業務範囲を超える看護ケアを実践する場合は指導者に相談できる ③病院や看護部の理念を理解し、組織の一員として自覚を持つことができる ④指導をうけながら部署の達成のための活動に参加できる ⑤部署のルールやシステムを理解することができる ⑥指導のもと、社会人としての基本的な態度を身につけることができる ⑦自らの行動の傾向を知ろうとすることができる ⑧指導のもと、仕事の内容に優先順位をつけ、タイムマネジメントができる	①院内や部署のルールを守って行動できる ②チームメンバーとしての役割が分かり実践できる ③チームリーダーとしての役割をこなすことができる ④自らの行動の傾向が分かり、情報や行動、時間、安全のマネジメントができる ⑤勤労看護師やコメディカルとの建設的な協力関係を確立し維持できる(お互いの役割や考え方の違いを理解する) ⑥ケアや説明に対し責任を持つことができる ⑦プリセプターの役割を知ることができる	①チームリーダーとしての役割が分かり実践できる ②チームに必要なと思われる視点や気づきを上司や同僚に伝えることができる ③メンバーとしてリーダーを支える行動が分かり実践できる ④他職種のメンバーとともにケアや計画を検討し、再評価、プランニングできる ⑤仕事の優先順位やタイムマネジメントの指導ができる ⑥プリセプターができる ⑦看護学生に指導できる	①看護部の方針と目標から部署が目指すべき目標を部署長とともに考えることができる ②部署の問題や課題を把握・分析し解決できる計画が立案できる ③部署の目標達成のために具体的な行動計画を実践できる ④自己の成長を図るための課題や目標を明確にできる ⑤業務手順やマニュアル、チェックリストなどの作成・改善に協力できる ⑥部署が効率的な看護実践ができるよう、他部署や組織間、時間調整を行う
	自己研鑽		教育 自己研鑽	【レベル毎の目標】	指導のもと自己の教育課題に気づく	自己の教育課題をみいだす	自己の教育課題にむけた教育活動を展開する	自己の教育的課題に取り組みながら、教育的活動において指導的な役割ができる
				【行動目標】	①指導や助言のもと、自らの実践を見守ることができる ②研修に参加できる ③症例発表ができる	①参加した研修の伝達講習ができる ②院内研修に参加できる ③院内勉強会の開催に参加できる ④症例発表ができる	①部署のスタッフの教育ができる ②院内勉強会(研修)において主催や指導者としての役割ができる ③看護実践において看護学生の指導ができる	①ロールモデルとして行動できる ②スタッフのレベルに応じた指導・育成ができる ③メンターとして行動できる ④部署での看護の提供において主導的役割を示すことができる ⑤スタッフのキャリア開発実現にむけた教育・指導の支援ができる